

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成27年10月1日(2015.10.1)

【公表番号】特表2013-543117(P2013-543117A)

【公表日】平成25年11月28日(2013.11.28)

【年通号数】公開・登録公報2013-064

【出願番号】特願2013-530750(P2013-530750)

【国際特許分類】

G 0 1 N	33/574	(2006.01)
C 0 7 K	16/32	(2006.01)
C 1 2 N	15/02	(2006.01)
C 1 2 M	1/34	(2006.01)
G 0 1 N	33/53	(2006.01)
G 0 1 N	33/531	(2006.01)
C 1 2 P	21/08	(2006.01)

【F I】

G 0 1 N	33/574	A
C 0 7 K	16/32	Z N A
C 1 2 N	15/00	C
C 1 2 M	1/34	F
G 0 1 N	33/53	D
G 0 1 N	33/53	Y
G 0 1 N	33/574	D
G 0 1 N	33/531	A
C 1 2 P	21/08	

【誤訳訂正書】

【提出日】平成27年8月11日(2015.8.11)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

癌に罹患している疑いのある被験者のサンプルにおいて癌細胞の有無を決定する方法であって、

a) B R A F ポリペプチドにおいて配列番号：1により特徴付けられるエピトープに特異的に結合する抗体に該サンプルを、該抗体のエピトープへの結合を可能にする条件下で接触させ、

b) エピトープに対する抗体の結合を決定し、それによって癌細胞の有無が決定されることを含み、

前記抗体が受託番号 D S M A C C 3 0 9 1 で寄託されているハイブリドーマクローンにより生成された抗体である、方法。

【請求項2】

前記癌細胞が組織サンプル内に存在する請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記組織サンプルが組織切片サンプルである請求項2に記載の方法。

【請求項4】

工程 b) における抗体のエピトープへの結合が、被験者が抗癌療法に応答性であることを示す、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

前記抗癌療法が、抗 B R A F アンチセンス R N A 、 s i R N A 又はミクロ R N A 劑、抗 B R A F 抗体、ソラフェニブ、 R A F - 2 6 5 、 P L X - 4 0 3 2 、セツキシマブ、及び G D C - 0 8 7 9 からなる群から選択される請求項 4 に記載の方法。

【請求項 6】

受託番号 D S M A C C 3 0 9 1 で寄託されているハイブリドーマクローンにより生成された抗体。

【請求項 7】

受託番号 D S M A C C 3 0 9 1 で寄託されているハイブリドーマクローン。

【請求項 8】

a) 請求項 6 に記載の抗体を含む分析ユニットであって、該分析ユニットに適用されるサンプル中の B R A F ポリペプチドにおいて配列番号： 1 により特徴付けられるエピトープへの抗体の特異的結合の決定を可能にする分析ユニットと；

b) 分析ユニットにより決定される結合を評価し、診断を確立するための実行ルールを含む評価ユニット

を含む癌の診断装置。

【請求項 9】

前記サンプルが組織サンプルである請求項 8 に記載の装置。

【請求項 10】

前記組織サンプルが組織切片サンプルである請求項 9 に記載の装置。

【請求項 11】

請求項 6 に記載の抗体を含む癌診断キット。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 3】

本発明の上述した方法の好ましい実施態様では、前記抗癌療法は、抗 B R A F アンチセンス R N A 、 s i R N A 又はミクロ R N A 劑、抗 B R A F 抗体、ソラフェニブ、セツキシマブ、 R A F - 2 6 5 、 P L X - 4 0 3 2 及び G D C - 0 8 7 9 からなる群から選択される。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 4 1】

ここで使用される「抗癌療法」なる用語は、外科手術ベースの治療、放射線ベースの治療、薬剤ベースの治療、又はその組合せである治療を含む。前記薬剤ベースの抗癌療法は、好ましくは B - R a f ポリペプチド、より好ましくは配列番号： 1 に示すエピトープを有する B - R a f ポリペプチドに影響を与える治療法である。適切な薬剤は、 B - R a f ポリペプチドのタンパク活性、又は B - R a f 癌遺伝子の転写又は翻訳、又はその転写物に干渉可能である。好ましくは、前記抗癌剤は、抗 R a f アンチセンス R N A 、 s i R N A 又はミクロ R N A 劑、抗 R a f 抗体、及び小分子からなる群から選択される。特に好ましい薬剤はソラフェニブ、 R A F - 2 6 5 、 P L X - 4 0 3 2 又は G D C - 0 8 7 9 である。